

放課後子ども教室だよ

おおだいら子ども教室訪問

令和2年10月30日(金)訪問

○開設年度	平成29年	○参加者	対象学年：1～6年生
○活動場所	二本松市大平公民館		登録児童数：17名
○実施回数	31回	○登録スタッフ	安全管理員8名 活動指導員2名
○実施時間	3時間 金曜日 (14:00～17:00)	○活動内容	宿題 運動 自由遊び 体験活動等

多様な活動を取り入れています

おおだいら子ども教室では、毎月1回子どもたちが考えた企画を年間プログラムの中に位置付けて実施しています。開校式の際に、班ごとに担当する日時を割り当てて、「みんなでどんなことをしたら楽しいか」「どんなことをしたいか」を相談する時間を設けているそうです。これまでに「ゲーム大会」「ハロウィンパーティー」を実施して、みんなで楽しい時間を過ごしたそうです。

訪問当日の活動は、「森の木陰で読み聞かせ」でした。読み聞かせ会場は、施設内にある大きな木の下に設けられ、秋に関連する内容の絵本が多数展示されていました。

読み聞かせをするのは、二本松市の地域おこし協力隊員の丸田陽加里さんと、JICAの佐藤綾さんです。丸田さんは海外留学の経験があり、市内の小学校でも英語の本の読み聞かせをされています。また、佐藤さんは、青年海外協力隊員として今後海外へ派遣される予定だそうです。おおだいら子ども教室のスタッフからの要請に応じてくださり、「おおだいら子ども教室のお役に立てれば」と、今回丸田さんと一緒に協力をしてくださることとなりました。

子どもたちは、「見えるところに移動していいよ」という丸田さんの声で、間隔を取りながら本の目の前まで集まり、英語による読み聞かせを楽しみました。丸田さんが選んだ本は、ご自身が子どもの頃に母親から読み聞かせてもらった本で、だいが読み込まれており、丸田さんの宝物だそうです。子どもたちは、そんな丸田さんの思いを感じながらじっくり聞いていました。

JICAの佐藤さんは、以前学校の教員をされていたそうです。ご自身が選書した本を子どもたちに語りかけるように読んでくださいました。

子どもたちは、秋晴れの心地よい日差しの下で、お話の世界を楽しみました。



ポイント 地域の方とのつながりを大切に

おおだいら子ども教室では、例年プログラムの中に調理実習を位置付けていますが、今年度は見合わせています。

そのことを知った地域の「ひまわり会」（地域の料理サークル）の方々が、「子どもたちに」とおにぎりを差し入れてくださったそうです。感染症対策として、一人分ずつパッキングしてくださるという配慮もあり、子どもたちみんなでありがたくいただいたということでした。

昔から、大平地区の方々は地域の子供たちを大切にし、活動を温かく見守ってくださっています。おおだいら子ども教室のプログラムの中には、地域の方の協力の下で実施しているものもあります。スタッフも地域とのつながりを大切にしているとおっしゃっていました。

コロナ禍における活動のヒント

新型コロナウイルス感染症対策について気をつけているのは、「体温測定」「消毒」「ソーシャルディスタンス」「スタッフからの声かけ」です。子どもたちに折にふれてスタッフから声をかけることで、子どもたちの意識を高めるようにしているそうです。

おおだいら子ども教室では、以前から活動後の清掃を子どもたち自身で行うようにしています。子どもたちにとって清掃は当たり前のことであり、習慣となっています。今年度は、子どもたちが清掃の際に自発的に消毒作業も行うようになったということです。おおだいら子ども教室の子どもたちには「自分たちで使ったところは、自分たちできれいにする」という意識が育っています。